



セピア色の時代。
でも、みんな生き生きしていた。

明治



昭和



大正



この時代はセピア色に色あせているかも知れませんが、
しかし町や村に暮らす人びとは、
そんななかでしなやかに生きてきました。

明治二十年代から昭和三十年代初頭。
穏やかな時も、激動の時代もありました。
この時代はセピア色に色あせているかも知れませんが、
しかし町や村に暮らす人びとは、
そんななかでしなやかに生きてきました。
「旧町村史」編は、
この時代の人びとが歩んだ足跡を描きました。

原町市史

第11巻 特別編Ⅳ

〔平成二十年三月発行〕

旧町村史

原町＋高平村
＋太田村＋大甕村＋石神村

■「旧町村史」の頒布価格 五〇〇〇円
■お申込み方法、お問い合わせ、特典
については裏面をご覧ください。

編集・発行

福島県 南相馬市

福島県南相馬市原町区牛来字出口一九四
南相馬市博物館市史編さん係
〒975-0051
〒975-0051 南相馬市博物館市史編さん係
〒975-0051 南相馬市博物館市史編さん係
shishien@city.namamori.lg.jp

【写真提供】
右上 川布川 雄幸氏
右中 川布川 雄幸氏
右下 青葉幼稚園
左中 川布川 雄幸氏
左下 川布川 雄幸氏

原町市史

第11巻 特別編Ⅳ

〔平成二十年三月発行〕

旧町村史

編集 福島県南相馬市
発行

■価格と申し込み方法

※頒布価格 旧町村史編Ⅳ五〇〇〇円

【特典】原町市史全十一巻を購入する場合は20%引き（四〇〇〇円）になります。〔随時受付中〕

※お申し込み方法

電話・はがき・Eメールなどによって、原町市史取扱い書店、もしくは南相馬市博物館市史編さん係にお申し込みください。

※配本

取扱書店からの配本になります。送付を希望される方は送料など実費負担になります。

■原町市史取扱書店

南相馬市（〇二四四）

おうち書店 原町区三島町

文芸堂国見町店 原町区栄町

文芸堂国見町店 原町区国見町

文芸堂松井町店 原町区松井町

文芸堂書店小高店 小高区仲町

相馬市（〇二四四）

文芸堂書店 鹿島区鹿島

中村字田町 中村区田町

中村字大町 中村区大町

中野寺前 中野区寺前

浪江町（〇二四〇）

くさか書店 権現堂下続

郡書店 権現堂新町

ほていや書店 権現堂新町

双葉町（〇二四〇）

清寿堂書店 新山広町

大熊町（〇二四〇）

ブックストアム 下野上大野

富岡町（〇二四〇）

菊地書店 中央一丁目

目次

プロローグ 「旧町村史」編纂の姿勢と旧町村前史

「旧町村史」への取り組み／旧町村前史

第一章 「街」を希求したマチー原町

第一節 公的施設と都市志向／行政と公的施設

暮らしを支える公的施設／都市化を支える公的施設／交通と通信
三〇〇／新田川流域に生れた駅弁「鮭めし」

第二節 地域経済の柱／産業

諸産業とその概観／原町紡織株式会社／石川組原町製糸所／松永一門／金融／旅館業／料亭／花柳界など／劇場／映画館
三〇〇／原町数え歌・原町の町並みと建築物

第三節 苦楽あふれる暮らし／社会のできごと

市制施行への意識と米騒動／保健と衛生／海からのめぐみ／戦争体験の記録
三〇〇／折りから医療へ／種痘の導入／ドロボの渡し／戦争によって変えられた葬儀

第四節 地域中心校の群像／教育

原町における明治初年の教育／原町における初等教育機関のあゆみ／戦後六・三・三制の開始／実業教育を中心とした補習教育／中等教育機関の拡充／幼稚園・保育所／社会教育／教育委員会

第五節 「街」の社、「街」の寺／社寺

原町の神社／原町の寺院

第二章 環境を活かして暮らす／高平村

第一節 村治の流れと諸施設／行政と公的施設

高平村の誕生／脇本・高野・遠藤村長時代／村長選挙とその波紋／青田・鈴木村長時代／混乱から安定へ／村田村長時代／戦争から平和へ／紺野・伏見・木幡村長時代／警察・消防・郵便・その他
三〇〇／農村改革の悲哀／解放させられた側の視点から

第二節 さまざまななりわい／産業

農業と産業組合／畜産業と動物飼育／養蚕業と諸事／近海漁業と鮭漁／製塩／商工業
三〇〇／高平村の最高峰・物見山

第三節 地域振興と人びとの暮らし／社会のできごと

高平村に生きる／災害と建設／統後の暮らし／昭和の社会と文化

第四節 「種徳」につらめかれた教えと学びの世界／教育

小学校のあゆみ／高平中学校の誕生／補習教育・青年教育機関／社会教育／教育委員会
三〇〇／林泉江／泉のなきさに育まれし篆刻家

第五節 地域を担う神社と寺院／社寺

高平村の神社／高平村の仏堂

第三章 「相馬」の誇りを意識した村／太田村

第一節 太田村案内／行政と公的施設

村況と村役場／警察と消防／駅／原町競馬・郵便局・保健衛生／村有林と太田財産区

第二節 川・道・駅を上手に活かす／産業

産業の概観と各種組合／太田村の産物／耕地整理と太田川治水／商工業

第三節 教化村運動と部落報徳社の結成／社会のできごと

昭和恐慌からの脱出を目指して／運動の母体／部落報徳社の結成／部落常会の定着／運動の実際／疲弊脱出の道のり／戦時中の常会／戦後の常会／教化村運動の終焉
三〇〇／明治時代のまぼろしの「野馬追」

第四節 報徳教育と青年団の先進地／教育

太田小学校のあゆみ／太田中学校のあゆみ／補習教育・青年期教育／社会教育のあゆみ／教育委員会

第五節 歴史を支えた神社と寺院／社寺

太田村の神社／岩屋寺と相馬家

第四章 農漁村の多彩な生活／大甕村

第一節 近代大甕のあゆみ／行政と公的施設

大甕村の誕生と発展／政争にゆれる大甕村／大正から昭和初期の村政／大甕村の戦時行政／大甕村の戦後／駐在所・郵便局のあゆみ／消防団のあゆみ
三〇〇／健康道路

第二節 海と地形のめぐみ／産業

大甕村の近海漁業と製塩／蘭草の栽培と蘭草加工品／大甕苗圃と桑苗生産
三〇〇／地曳網／一人語り／小沢の場合／本との戦い／大甕村の治水事業／鉄道が通る村／敷設と火災／激動の昭和戦前期

第三節 苦難を乗り越えた団結力／社会のできごと

大甕村における小学校教育のあゆみ／大甕中学校の設置／補習教育・青年教育機関／幼児教育と社会教育／教育委員会

第四節 受け継がれた地域教育／教育

大甕村の諸社／医徳寺、田明院、小沢虚空蔵堂

第五節 大甕村の原点／社寺

第五章 山の恵みとともに歩んだ広大な村／石神村

第一節 村を維持する施設／役場と公共施設

村域の範囲と石神村誕生前後／石神村の公共施設／村をまもり、情報をつなぐ施設／行き来のための施設や機関
三〇〇／上街道の林家に伝わる「弘道」の書

第二節 阿武隈の山に生きる／産業

石神村の産業とその背景／山や森林からの恵み／副業の工夫

第三節 困難に立ち向かう人びと／社会のできごと

災害と備え／経済更生村の指定と推移／灌漑用水をめぐる／太田川の笹部堰と鉄山溜池／雲雀ヶ原の開発と利用／「戦争」という体験
三〇〇／ブラジル移民

第四節 教育熱に支えられた一村二校／教育

明治初期の初等教育／石神村の成立と小学校／補習教育・中等教育機関の歩み／幼稚園・保育所／社会教育／教育委員会

第五節 ここを支えた神社と寺院／社寺

石神村の神社／石神村の寺院

エピローグ 原町市への道／残された課題

はじめに／戦後改革から原町市の誕生まで／残された課題／おわりに

資料／旧町村長・議員一覧、戦没者一覧

付図 原町地区商店街地図／昭和十年地図で見る昔のはらまち

本巻担当者

監修 修 荒 武治 元福島県立相馬女子高等学校校長

専門委員 荒 武治 元福島県立相馬女子高等学校校長

専門委員 岩崎 真幸 米のくみ民俗文化研究所代表

専門委員 須田 将司 福島県史学会・博士（教育学）

専門委員 山田 英明 福島県歴史資料館

執筆者 今村 昭司 前南相馬市博物館館長

執筆者 岩間 剛城 東北大学大学院経済学研究科

執筆者 太田 勝弘 元原町市立原町第二小学校校長

執筆者 懸田 弘訓 元福島県立博物館学芸課長

執筆者 中沢 満 元原町市立原町第三小学校校長

執筆者 二上 英朗 作家

執筆者 二上 文彦 南相馬市博物館管理学芸係

執筆者 渡部 恵一 南相馬市博物館市史編さん係

執筆者 和田 裕子 筑波大学大学院研究生

石川組原町製糸所の観模会 【写真提供】中沢 満氏

南相馬市博物館市史編さん係

福島県南相馬市原町区牛来字出口一九四
南相馬市博物館市史編さん係
Tel 〇一四四（五）七〇〇〇 Fax 〇一四四（四）六九三三
shishihensan@city.minamisoma.jp